

原子力規制委員会記者会見録

- 日時：令和5年2月1日（水）15:00～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 13階B・C・D会議室
- 対応：山中委員長

<質疑応答>

○司会 それでは定刻になりましたので、ただいまから2月1日の原子力規制委員会定例会見を始めます。皆様からの質問をお受けします。

いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問をお願いいたします。

御質問のある方は手を挙げてください。ヨシノさん。

○記者 すみません、テレビ朝日、ヨシノです。

トピックスの高浜4号機についてなのですが、お話を聞いていると1月25日、29日に制御棒駆動機構系の警報が鳴ったということで、昨日3回目が鳴ったから点検のために電源を落としたところ、数十秒後にトリップが起きたと。これが時系列だと思うのですが、現状を御覧になって、委員長はこの原因についてどのようにお考えになっているのか、今の認識を教えてください。

○山中委員長 御質問は高浜4号炉の自動停止の原因についての御質問だと思うのですが、幾つか今日も原因の可能性については挙げられていたかと思うのですが、まだ推測の段階ではございますけれども、制御棒の制御回路のトラブル、あるいは制御棒の駆動機構のトラブル、その二つが可能性としては非常に大きいかと私は感じております。これからしっかりと関西電力には原因を究明していただきたいし、原因の対応についてもしっかりとやっていただきたい。検査官も現場に入って、情報収集等を行っておりますので、情報が入り次第、連絡が入ると思います。

○記者 現状においては、まだハードウェアなのか、あるいはソフトであるのか、あるいはヒューマンエラー的なものなのかというのは、これからの調査ということになるのでしょうか。

○山中委員長 恐らく推定ですが、制御棒の関係であることは、推定はできる場所なのですが、御指摘いただいた3点ですね、ヒューマンエラーなのか、ハードウェアなのか、あるいはソフトウェア、あるいは回路上の問題なのかということについては、これからの原因究明を待ちたいというふうに思います。

○記者 原因が分からなければ、なかなかお答えづらいところもあると思うのですが、現時点において、関心が非常に高い、地元中心に高かったのですが、この重みといますか、重要度といますか、その辺についての御認識はまだちょっと難しいでしょうか。

○山中委員長 今日も委員会の中でお話ししましたが、「止める」、「冷やす」、「閉じ込める」、原子炉の重要な機能のうちの一つにトラブルが発生したということで、大きな関心を持って当たっているのは事実でございます。

ただ、その原因がまだ分かりませんので、トラブルの重さについてはまだお答えできる段階ではないかなというふうに思っています。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほかに御質問のある方、いらっしゃいますか。はい、ヤマダさん、お願いします。

○記者 新潟日報社のヤマダです。

土曜日に新潟県の柏崎刈羽原発に現地調査に委員長いらっしゃって、まず改めてですが、その所感をこちらでもお伺いしたいのと、その場で、今回の3号機の高経年化技術評価書の、2号機の情報からの流用問題についても説明を受けて、余りちょっと納得のいく説明ではなかったというふうなことをおっしゃっていました。前回の委員長会見で私質問をさせていただいて、余り対応や説明に納得がいかなかった場合は公開の会合でも議論に取り上げる可能性があるとおっしゃっていましたが、今のところ、その御予定といえますか、お考えはありますでしょうかという、その2点お願いします。

○山中委員長 まず、柏崎刈羽原子力発電所、先週の土曜日、非常に厳しい気象条件の中、何とか無事たどり着くことができました、帰ってくることもできたわけですけど、非常に厳しい条件の中で、今年のちょうど同じ時期に私、現地調査に伺っているのですけども、そのときと比べますと入域管理については非常によくなっているという印象を受けました。ただ、核物質防護については検査官から幾つかの課題を聞いていましたので、その課題について意見交換の中でお話をさせていただきました。これは東京電力に今後の対応をきちんとしていただくようお願いをしたところです。

また、先ほどお話のありました3号炉の申請書類のミスでございますけれども、当日も意見交換の中で、お話を申し上げたのですけれども、小さな問題ではないというふうな認識で、私はおります。やはり審査に処する資料でございますので、決して不用意なミスがあってはならないと思いますし、どうしてそういうミスが生じたのか、あるいは今後どういう対策をとられるのかということについて、当日十分な説明がございましたので、また改めて審査会合の中できちっと説明をいただいて、審査を進めていきたいというふうに思っています。この案件自身は原子炉の安全性に直接何か影響を及ぼすような問題ではございませんけど、やはり審査に係る書類の間違いでございますので、ここについては、原因と対策については東京電力に真摯に対応していただくようお願いをいたしました。当日の説明は納得できませんでしたので、今一度説明してくださいということをお願いしたところです。

○記者 ありがとうございます。

ちょっと突っ込んだ質問なのですが、当日の説明がどのような点で納得がいかなかつ

たのでしょうか。資料が足りないとか、事実関係を現場の説明に当たった意見交換で説明に当たった人が把握していなかったか、どういう点で。

- 山中委員長 原因についてきちっと御説明がなかったということと、その対応についての説明もなかったということで、そこはきちっと説明をしてくださいということでお願いをいたしましたところです。
- 記者 対応というのは再発防止策についてということでしょうか。
- 山中委員長 そういうことです。
- 記者 ありがとうございます。

○司会 ほかに御質問いかがでしょうか。はい、長谷川さん。

○記者 NHKの長谷川です。

高浜4号機の件で、冒頭の制御の駆動装置の原因も考えられるというふうなこと、その理由についてもう少し改めて伺えますか。

- 山中委員長 原子炉が自動停止をしたということに関して、原因としては、例えば中性子計測機器の不具合ですとか、あるいはタービン等のそういう機器の不具合ですとか、そのほかにも考えられるのですけども、例えばほう酸濃度が急上昇したとか、そういった類の事象が見られていないという報告を受けておりますので、恐らくですけれども、制御棒に係るようなところの不具合ではないかなという、あくまでもこれは私の推測でございます。
- 記者 あと原因究明と再発防止というようなことになってくると思うのですけれども、その辺りで今後求めることとか、事業者に求めること、またスケジュールと申しますか、直ちに報告が必要になってくるのかなとも思うのですけど、そのあたり事業者に対して。
- 山中委員長 きちっとやはり原因については究明をしていただきたいと思ひますし、再発防止策についても、関西電力については対応していただきたいというふうに思ひます。審査官にもお願いを、検査官にもお願いをいたしましたけれども、公開の場でその原因の調査結果、あるいは再発防止策について、きちっと報告を受けて公開をしていきたいというふうに思ひますし、そのように指示をいたしましたところです。

○司会 ほかに御質問ありますか。

よろしいでしょうか。はい、タシマさん。

○記者 共同通信のタシマです。よろしくお願ひします。

議題2の福井大学の高度被ばく医療支援センターの指定に向けた動きなのですけれども、原発が集中する北陸に今までなかったということで、これまで山中委員長もちょっと不安に思われてたということで、委員会で発言がありましたけれども、これから指定されるということで、改めて指定に向けた受け止め、よろしくお願ひいたします。

○山中委員長 やはり北陸地域というのは、原子力発電所が非常に多くある地域でございますし、その付近に指定の医療機関がないというのは、非常に数年前から危惧をしていたところでございます。福井大学には手を挙げていただいて、非常にありがたいと思っておりますし、これから早急に審査をして確定をさせたいというふうに思っております。

今日、少し出ておりましたけども、ホールボディーカウンターですとか、あるいは甲状腺モニターというのをお持ちでないという、現時点でお持ちでないということなので、それは近隣の医療施設にあるということで、それは代替措置としてそういうふうに考えて、指定を進めていきたいというふうに思っています。非常にあの地域でそういうセンターができるということは喜ばしいことだというふうに思います。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほかに御質問ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは本日の会見、以上としたいと思います。ありがとうございました。